



森林浴とブナの観察会

■大山は、ブナやミズナラの自然林に囲まれた豊かな森林を形成しています。明治、大正、昭和の初期に、生産林としてヒノキやカラマツが国有林に植生されましたが、現在では、かつての自然林に転換する取り組みとして、ブナ林を再生する活動が展開されています。

■「大山横手道上ブナを育成する会」は、平成4年からブナの植栽活動などを始め、平成20年には鳥取森林管理署と協定を結び「大山ふれあいの森」39haについて、ブナの育成、ブナの里親、青少年を対象とした自然観察会や体験林業など幅広く積極的な活動をしています。

■この活動には、毎年、延べ約800人も一般市民ボランティアの参加があり、大山隠岐国立公園の自然保護はもちろん、参加者への自然保護思想の普及啓発にも大きく貢献しています。

## ■大山横手道上ブナを育成する会の取り組み



美しい空気と水を  
味わいながら  
気持ちの良い汗を流し  
次の世代に  
贈り物をしよう！



ブナの植栽



ブナの里親



農場で苗木作り

植えよう  
増やそう  
ブナの森



# ■大山ガイドクラブの登山ガイド



■現在でも鳥取県内外から多くの小中高校の児童、生徒が遠足などで大山を訪れていますが、大山の団体学生登山のピークは、昭和50年代後半でした。その頃、登山者を安全にガイドすることを目的に地元の有志による「大山ガイドクラブ」が結成(昭和56年)されました。大山ガイドクラブの長年の活動により、学生や一般の初心者登山者に対する安全な登山が確保されたとともに、大山の自然解説を通じて、大山登山の楽しさや大山の魅力、大山の自然保護思想等が、延べにすると10万人以上の人々に伝えられました。

